



■手術前に休薬する薬剤と休薬期間 (1)

2018.09

薬効分類	一般名	採用医薬品(院内外)	休薬期間の目安	血中濃度半減期	備考(効果持続時間等)																			
抗凝固剤	ワルファリンカリウム	ワーファリン	3~5日	60~133(hr)	抗凝固効果は投与12~24時間後に発現し、48~72時間後まで持続する。〔注1〕																			
	低分子ヘパリン	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンNa静注	[穿刺の12時間前]	1.5(hr)	〔注1〕																		
	未分画ヘパリン	ヘパリンナトリウム	ヘパリンNa注	[穿刺やカテーテル抜去の4時間前]	30~60(min)	〔注1〕																		
		ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム皮下注																					
	トロンビン阻害薬	ダビガトランエテキシラートメタンシルホン酸塩	プラザキサ	1日 (出血の危険性が高い患者を対象とする場合、手術の2日以上前までの投与中止を考慮)	腎機能別休薬期間の目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">腎機能 (CCr, mL/分)</th> <th rowspan="2">半減期(時間)</th> <th colspan="2">休薬期間</th> </tr> <tr> <th>出血リスク(標準)</th> <th>出血リスク(高)*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>> 80</td> <td>13(11~12)</td> <td>24時間</td> <td>2~4日</td> </tr> <tr> <td>50 < CCr ≤ 80</td> <td>15(12~34)</td> <td>24時間</td> <td>2~4日</td> </tr> <tr> <td>30 < CCr ≤ 50</td> <td>18(13~23)</td> <td>少なくとも2日</td> <td>4日</td> </tr> </tbody> </table> *出血リスク(高): 完全な止血機能を要する大手術(例:心臓外科手術、脳外科手術、腹部手術、重要臓器に関連する手術)、腰椎麻酔など。また、高齢、合併症、抗血小板薬の併用など出血リスクの高い患者の手術。 〔注1〕		腎機能 (CCr, mL/分)	半減期(時間)	休薬期間		出血リスク(標準)	出血リスク(高)*	> 80	13(11~12)	24時間	2~4日	50 < CCr ≤ 80	15(12~34)	24時間	2~4日	30 < CCr ≤ 50	18(13~23)	少なくとも2日	4日
	腎機能 (CCr, mL/分)	半減期(時間)	休薬期間																					
			出血リスク(標準)	出血リスク(高)*																				
	> 80	13(11~12)	24時間	2~4日																				
	50 < CCr ≤ 80	15(12~34)	24時間	2~4日																				
	30 < CCr ≤ 50	18(13~23)	少なくとも2日	4日																				
Xa阻害薬	リバーロキサバン	イグザレルト	1日	5~13(hr)	第Xa因子活性阻害率は投与後0.5~4時間に最高値に到達し、24時間目の時点でベースラインの-3~16%に戻る。〔注1〕																			
	フォンダパリヌクスナトリウム	アリクストラ皮下注	3日	14~17(hr) (腎機能正常人)	企業は術後に本薬を使用した患者が緊急で再手術が必要となった場合、最終投与後36時間以上開けることを推奨している。〔注1〕																			
	アピキサバン	エリキュース	1~2日(備考参照)	6~8(hr)	出血リスク(低):少なくとも24時間以上、出血リスク(中~高):少なくとも48時間以上の間隔をあけること〔注1〕																			
	エドキサバン	リクシアナ	1日	4.9(hr)	半減期より推定(企業)。〔注1〕																			
抗血小板剤	アスピリン	アスピリン、バイアスピリン、バファリン81/330	7日	15~20(min)	血小板の寿命に等しい。薬理作用が不可逆的な薬剤〔注1〕																			
	アスピリン・ランソプラゾール	タケルダ配合錠	7日	アスピリン 0.5±0.2(hr) ランソプラゾール 1.2±0.4(hr)	血小板の寿命に等しい。薬理作用が不可逆的な薬剤〔注1〕																			
	チクロピジン塩酸塩	チクロピジン塩酸塩、パナルジン	7日	6.9~7.6(hr)	血小板の寿命に等しい。薬理作用が不可逆的な薬剤〔注1〕																			
	クロピドグレル硫酸塩	クロピドグレル錠、プラビックス	14日	6.9±0.9(hr)	血小板の寿命に等しいが、臨床試験において、投与終了後7日過ぎても血小板凝集抑制効果が回復していなかった例があったため、14日とした(プラビックス:企業)。薬理作用が不可逆的な薬剤。〔注1〕																			
	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン	コンブラビン配合錠	14日	クロピドグレル* 0.5±0.2(hr) アスピリン 0.4±0.2(hr)	血小板の寿命に等しい。薬理作用が不可逆的な薬剤〔注1〕 ※活性代謝物																			
	プラスグレル塩酸塩	エフィエント	14日	0.9~4.9(hr)	血小板の寿命に等しい。薬理作用が不可逆的な薬剤〔注1〕																			
	イコサペント酸エチル	イコサペント酸エチルカプセル、エパデール、エパデールS	7日	不明	不明(単回投与の血中濃度は24時間後に投与前値に戻る)。但し血小板の細胞膜脂質と本剤の置換に時間がかかるため作用持続時間は長く、手術への影響を回避するには1週間程度、間隔が必要(エパデール:企業)。〔注1〕																			
	オメガ-3脂肪酸エチル	ロトリガ	7日	不明	〔注1〕																			
	シロスタゾール	プレタールOD	4日	β相18(hr)	48時間〔注1〕																			
	サルボグレラート塩酸塩	アンブラーグ	1日	0.7(hr)	4~6時間。作用は12時間後には消失する(企業)。〔注1〕																			
冠血管拡張剤	ジラゼプ塩酸塩	コメリアン	3日	不明	約4時間。血小板が80%まで回復するのに3日間要する(コメリアン:企業)。〔注1〕																			
	トラピジル	トラピジル、ロコルナール	2日	6(hr)	48時間で完全に体外に排泄される(ロコルナール:企業)。〔注1〕																			
	ジピリダモール	ジピリダモール、ペルサンチン	1日	1.7±0.4(hr)	24時間で完全に体外に排泄される(ペルサンチン:企業)。〔注1〕																			
プロスタグランジン製剤	ベラプロストナトリウム	プロサイリン、ベラサスLA、ベラプロストNa	1日	0.9~1.1(hr)	8時間後でもまだ有意な抑制が認められたとの報告がある。24時間後にはほぼ体外へ排泄される(プロサイリン:企業)。〔注1〕																			
	リマプロストアルファデクス	オバルモン、プロレナール、リマプロストアルファデクス	1日	7(hr)	単回投与の結果3時間後には抗血小板作用消失(プロレナール:企業)。〔注1〕																			
虚血性心疾患治療剤	トリメタジジン塩酸塩	バスタレルF(当院非採用)	2日	11.5(hr)	半減期より推定(企業)。〔注1〕																			
脳血管代謝改善剤	イフェンプロジル酒石酸	セロクラール	1日	1.3~1.4(hr)	抗血小板作用は最低6時間は持続する。脳循環増加作用は2時間以上持続する(セロクラール:企業)。〔注1〕																			

表中の休薬期間は〔注1〕メーカー資料および麻酔科との検討結果、〔注2〕医薬品添付文書、〔注3〕インタビューフォーム、〔注4〕メーカー資料をもとに設定



■手術前に休薬する薬剤と休薬期間（2）

薬効分類	一般名	商品名 (赤字採用品)	注意事項	理由	備考
抗癌剤 (分子標的治療薬)	ベバシズマブ (遺伝子組換え)	アバスタチン点滴静注用	6週	血管新生阻害作用による創傷治癒遅延の可能性	消失半減期:11.7~13.4hr ※6~8週 [注4]
	スニチニブリンゴ酸塩	スーテントカプセル	7日		消失半減期: 未変化体:49.5hr、活性代謝物:75.3hr ※「目安として手術の7~10日前までに本剤の投与を終了することを検討すること」[注3]
	ソラフェニブトシル酸塩	ネクサバル錠	7日		消失半減期:25.5hr ※休薬期間は半減期より推定(企業)
	パゾパニブ塩酸塩	ヴォトリエント錠	7日		消失半減期:21.4~42.5hr ※休薬期間は半減期より推定(企業)
	アキシチニブ	インライタ錠	1日		消失半減期:2.5~6.1hr [注3]
	レゴラフェニブ水和物	スチバーガ錠	14日		消失半減期:27.4hr ※休薬期間は米国添付文書より
	テムシロリムス	トーリセル注	7日		消失半減期: 未変化体:15hr、活性代謝物:60hr ※作用の影響が軽減するまで1週間を要するため(企業)
	ラムシルマブ(遺伝子組換え)	サイラムザ点滴静注液	28日		消失半減期:183hr [注4]
	レンバチニブメシル酸塩	レンビマカプセル	7日		消失半減期:19.1~46.5hr ※臨床試験において、外科的処置を必要とする場合には7日間(軽度の処置では2日間)を目安に休薬した後、処置を行うことを推奨 [注4]
	アフリベルセプト ベータ (遺伝子組換え)	ザルトラップ点滴静注	28~42日		消失半減期:115~133hr(4.8~5.5日) ※臨床試験において、手術後28日未満、大手術後42日未満の患者は除外 [注4]
骨粗鬆症治療薬 (エストロゲンモジュレーター)	塩酸ラロキシフェン	エビスタ錠, ラロキシフェン塩酸塩錠	3日	エストロゲン様作用による血液凝固能が上昇し、血栓症のリスク上昇	消失半減期:24.3hr [注2, 3]
	バゼドキシフェン	ビビアント錠	3日		※休薬期間は半減期より推定(企業)
経口避妊薬	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	アンジュ21, アンジュ 28	28日	エストロゲン様作用あり。血液凝固能が上昇し、血栓症のリスク上昇	[注2] ※個人輸入等の使用歴に注意
	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	トリキュラー錠21, 28			
	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	ラベルフィーユ21, 28			
	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	オースM-21錠			
	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	シンフェーズT28錠			
	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	マーベロン21, マーベロン 28			
	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	ファボワール錠21, 28			
卵胞・黄体ホルモン配合剤 (月経困難症、機能性子宮出血)	ノルゲストレル・エチニルエストラジオール	プラノバル配合錠	42日	エストロゲン様作用あり。血液凝固能が上昇し、血栓症のリスク上昇	[注2]
	ドロスピレノン・エチニルエストラジオール	ヤーズ配合錠 ヤーズフレックス配合錠	28日		[注2]
	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	フリウェル配合錠LD「モチダ」 ルナベル配合錠LD, ULD			
卵胞ホルモン製剤	結合型エストロゲン	プレマリン錠0.625mg	28日	エストロゲン様作用あり。血液凝固能が上昇し、血栓症のリスク上昇	[注3]

表中の休薬期間は[注1] メーカー資料および麻酔科との検討結果, [注2] 医薬品添付文書, [注3] インタビューフォーム, [注4] メーカー資料をもとに設定

■手術前の服薬に注意が必要な薬剤

薬効分類	一般名	商品名 (赤字採用品)	注意事項	理由	備考
骨粗鬆症治療薬 (合剤)	レボノルゲストレル・エストラジオール	ウェールナラ配合錠	術前、長期臥床状態は慎重に投与 [医薬品添付文書]	エストロゲン様作用あり。血液凝固能が上昇し、血栓症のリスク上昇	手術予定がある場合は継続または中止の確認をとる。
卵胞・黄体ホルモン配合剤 (月経困難症、機能性子宮出血)	ノルエチステロン・エストラジオール	メノエイドコンピパッチ			
卵胞ホルモン製剤	エストラジオール	ジュリナ錠			
	エストラジオール(外用)	エストラーナテープ ディビゲル ル・エストロジェル			
	エストラジオール(注射)	プロギノン・デポー ペラニンデポー			
	エストリオール	エストリール錠&膈錠 ホーリン錠&膈錠 エストリオール錠&膈錠			
	エストリオール(注射)	ホーリン注 エストリールデポー			
	テストステロン・エストラジオール (注射)	ダイホルモン・デポー プリモジアン・デポー			